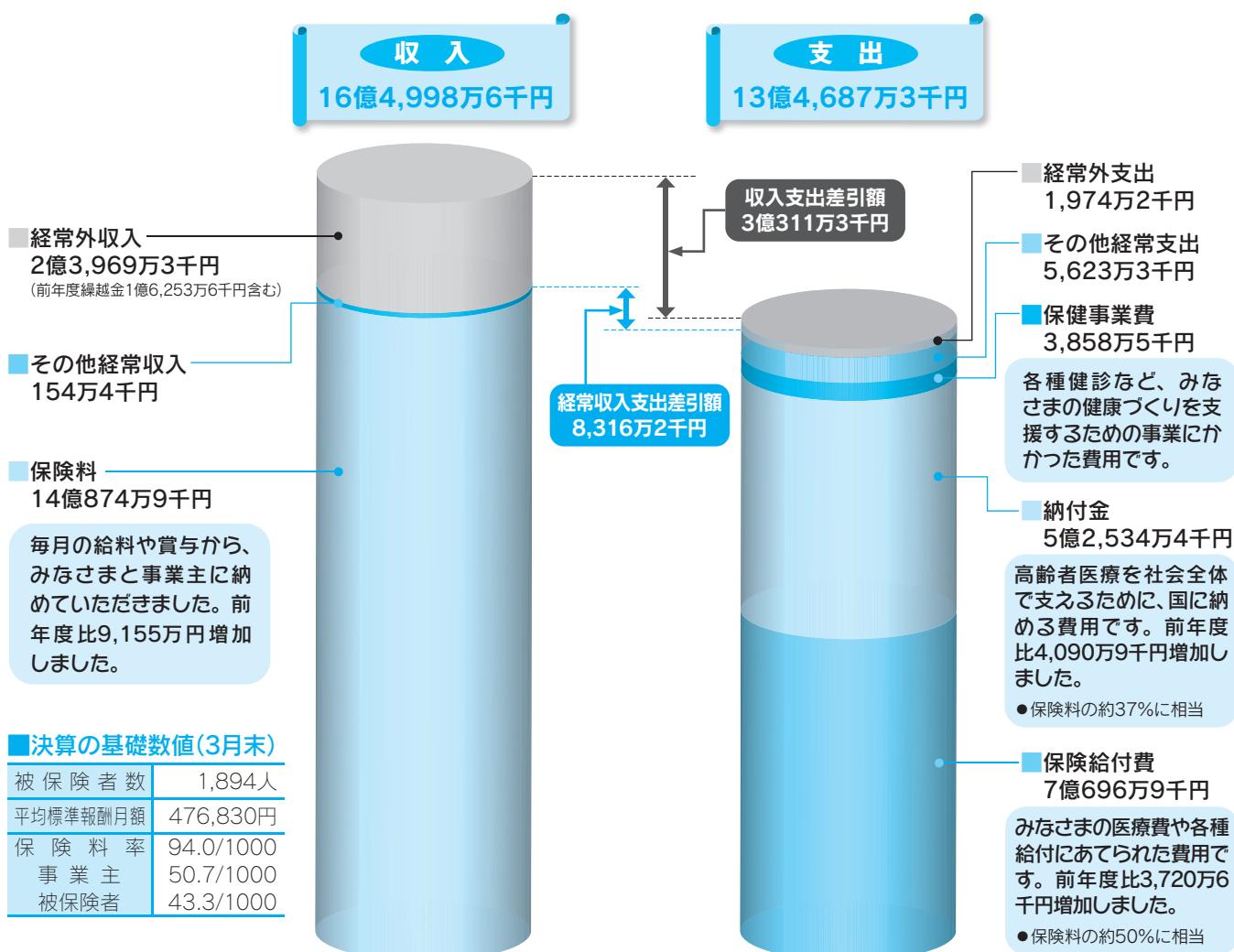


令和6年度決算のお知らせ

7月29日に開催されました組合会において、令和6年度の決算が可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

経常収入支出差引額 8,316万2千円

健康保険



また、増加し続ける医療費・納付金を賄うためには、毎月の給与分の保険料(年額約9億8,000万円)に加え、賞与分保険料の增收が必要であると見込まれます。高齢化に歯止めがかからない現在の状況では、医療費・納付金のさらなる増加は避けられず、賞与分保険料の変動によつては、当健保組合の財政が差し迫つた状態になると考えられます。

令和6年度は、経常収入支出差引額では8、316万2千円の黒字となりましたが、標準賞与額分の大半を医療費や納付金の支出に充てている状況です。

経常収支

保険給付費は、前年度比3、720万6千円増加の7億696万9千円となりました。また、納付金についても前年度比4,090万9千円増加の5億2、534万4千円となり、令和7年度には6億3千万円に増加する見込みです。

主たる収入源である保険料収入は、標準賞与額の増加等で前年度比9、155万円増加の14億874万9千円となりました。

支 出

健保組合は最適な健康保険の運営形態です!

健保組合では、加入者と事業主がコラボし、自主・自立の運営を行っています。そのメリットは…

①保険料率を自主設定

加入者・事業主の代表が、保険料率を自ら設定し、効果的・効率的な運営を行います。

②加入者の特性に応じた健康づくり事業を展開

加入者の年齢構成や勤務形態などからくる疾病傾向に応じた健康づくり事業が展開できます。

③付加給付の設定が可能

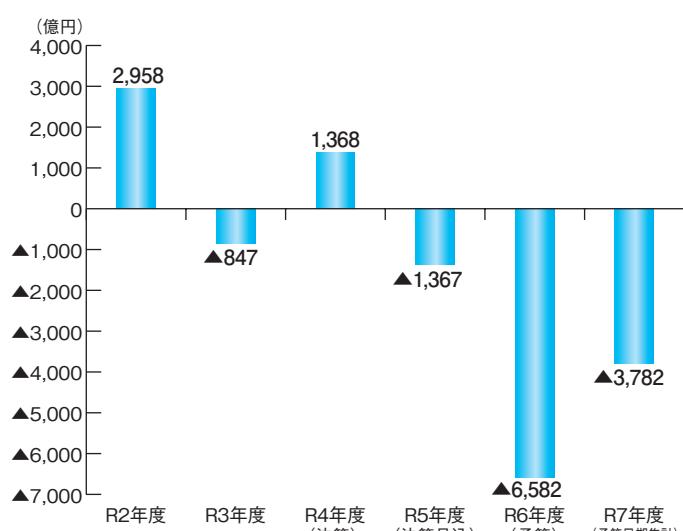
健保組合の財政状況により、独自の付加給付を設定できます。

このような状況の中、財政安定化への舵を切るために、加入員のみなさまがご自身の健康保持増進・健康管理に努められることが重要です。当健保組合の保健事業をご活用いただくとともに、日々から健康づくりに励まれ、ジェネリック医薬品を積極的に利用するなど、医療費の削減にご協力をお願いします。

健保組合を取り巻く状況

健保組合連合会が発表した「令和7年度健康保険組合予算早期集計結果の概

全国の健保組合の経常収支の推移



要」によると、全国1,372組合の経常収支差引額は3,782億円の赤字で、3年連続の赤字が見込まれています。赤字組合は前年度比147組合減少の1,043組合となりましたが、全体の76.0%を占めています。また、保険料率を引き上げた組合は149組合となりました。

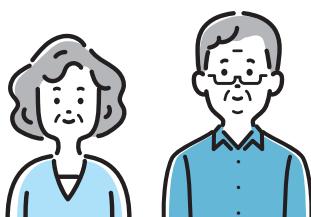
団塊の世代が75歳以上となり、超高齢化社会への対策が急務であるのはもちろん、現役世代の負担を軽減するため、健保組合の財政安定化が最重要課題となっています。

収支差引額 1億4,981万3千円

介護保険

■決算の基礎数値(3月末)

徴収対象第2号被保険者数	1,985人
平均標準報酬月額	522,021円
保険料率	19.0/1000
事業主	9.5/1000
被保険者	9.5/1000



介護保険収入は、前年度比1,257万6千円増加しました。一方で、介護納付金も前年度比731万9千円増加していますが、前年度からの繰越金1億1,185万6千円などを加えた結果、収支差引額が1億4,981万3千円となり、今後の介護納付金の増加に備え、準備金に5,000万円を繰り入れ、残りを全額次年度へ繰り越しました。

■収入

科目	決算額
介護保険収入	2億2,823万2千円
繰越金	1億1,185万6千円
収入合計	3億4,008万8千円

■支出

科目	決算額
介護納付金	1億9,019万2千円
介護保険料還付金	8万3千円
支出合計	1億9,027万5千円
収支差引額	1億4,981万3千円